

パラグアイ内政・外交報告（3月分） 政治情勢

2017年4月作成

1 内政

（1）上院の内規変更

28日、大統領再選を可能とするための憲法修正を目指す上院議員25名（コロラド党主流派11名、リベラル党ジャノ派8名、左派連合4名、UNACE党2名）が、議会建物内の左派連合事務所において、ベラスケス上院第二副議長（コロラド党）を「臨時議長」として「臨時議会」を開催し、法案の審議を保留する上院議長権限の無効化を含む内規変更を承認した。野党及び市民団体等は今般の内規変更への反対を表明した。

（2）憲法修正案の上院可決・デモ隊と警察の衝突

ア 31日、議会建物内の左派連合事務所において、上院議員25名（上記（1）と同じ）がベラスケス上院第二副議長を「臨時議長」として「臨時議会」を開催し、憲法修正案を「可決」した。同修正案は直ぐに下院に提出された。

イ 同日午後、抗議のために議会前に集まっていた野党を中心とする憲法修正反対派議員・市民と警察との衝突が発生。警察は放水車、ゴム弾、催涙ガス等を使ってデモの鎮圧を試みるも、暴徒化した一部市民の議会侵入を止めることができず、議会建物が放火されて1階部分が炎上した（火災は数時間後に鎮火）。更に、暴徒化した市民により議会周辺の建物や路上に駐車されていた車輛の破壊活動が行われた。翌1日朝迄に、未成年者を含む211名が逮捕された。

ウ 同日夜、カルテス大統領は、ツイッター公式アカウントに声明文を投稿し、暴力・破壊行為を非難し、国民に平静と対話を呼びかけ、民主主義及び政治経済の安定を脅かすとして一部の政治家とマスメディアを非難した。

（3）国債の発行を巡る動き

22日、上院議会の承認を得ないまま、総額5億ドルの国債が発行された。

2 外交

（1）OECD開発センター正式加盟

2日、ロイサガ外相はフランス・パリのOECD本部を訪問し、同開発センターの加盟書を提出した。これにより、パラグアイは同センターの正式加盟国となった。

（2）ドミニカ共和国との外相会談

6日、バルガス ドミニカ共和国外相が当地を訪問し、カルテス大統領を表敬し、ロイサガ外相と第1回二国間政策協議を行った。政策協議後、①パラグアイ観光庁とドミニカ共和国観光省間の観光に関する覚書、②パラグアイ人権勧告モニタリングシステム（SIMORE）のドミニカ共和国への導入のための技術協力計画、③一般旅券査証免除協定、④経済・通商関係発展のための覚書が署名された。

(3) アルゼンチンとの首脳会談及び二国間閣僚会合

ア 16日、カルテス大統領は当地を訪問したマクリ亜大統領と会談し、二国間のテーマとして、司法及び人権分野での協力、国境警備、麻薬取引及び組織犯罪への取り組み、水運、エネルギー及び接続性の向上等について意見を交わした。また、メルコスールに関して、域内の投資、公共入札、非関税障壁撤廃に関する交渉を前進させることで合意した。

イ 同日、両国外相をトップとして二国間閣僚会合が開催された。会合の結果、①「接続性強化」計画の実施に関する政府間覚書、②条約分野での協力に関する外務省間合意、③人身売買の防止・調査・探知に関するパ内務省と亜治安省の合意、④財務省間覚書、⑤アスンシオン国立大学と亜国立原子力委員会の協力枠組合意、⑥移民問題での協力に関する政府予備的合意が署名された。

(4) ブラジルとの外相会談

27日、ロイサガ外相は当国を公式訪問したヌネス伯外相と会談し、イタイプ条約付属書Cの改定、国境第2・第3架橋の建設、パラナ川・パラグアイ川航路、国境治安、メルコスール等のテーマについて協議した。また、両外相は「パブリック・ディプロマシー及びデジタル外交に重点を置いたコミュニケーションにかかる協力覚書」に署名した。

3 要人往来

(1) 来訪

- バルガス ドミニカ共和国外相
- マクリ 亜大統領
- ヌネス 伯外相
- 木原財務副大臣（米州開発銀行（IDB）年次総会）

(2) 往訪

- ロイサガ外相，仏訪問（OECD 開発センター）
- レイテ商工相，独，西訪問（投資誘致）
- バルハ農相，カナダ（米州防災プラットフォーム）
- ロイサガ 外相，亜訪問（メルコスール外相会合）
- ペーニャ財相，パナマ訪問（アンデス開発公社理事会）
- ペーニャ財相，米国訪問
- ヒメネス・ガオナ公共事業相，ボリビア訪問
- バリオス厚生相，米国訪問（汎米保険機構会合）
- レイテ商工相，米国訪問（AIPAC 政策会合）